

横浜町コミュニティ・スクール便り『夢をはぐくむ』

第3号 令和6年11月 横浜町学校運営協議会事務局

あいさつの町構想 ～その後～ & どんな先生に来てほしい？ の巻

前回6月の横浜町学校運営協議会では、学校と地域が一体となって力を入れる「あいさつの町づくり」という方向性について、学校の現状や委員の受け止めについて自由に意見を出し合いました。・・・「大人があいさつをしなくなってきた感があるので子どもの前で率先してあいさつをする必要がある」「あいさつの基本は家庭からなので家庭でのあいさつをがんばらないと」「相手を見てあいさつを交わすように努めたい」「この先も学校であいさつの意味を問う学びを大切にしてほしい」「役場に行ってもあいさつの声あまり聞かれないので残念な気持ちになることがある」・・・などが出されました。

あれから約半年。今回のテーマは「あいさつの町構想 ～その後～」と題して、前回から各委員の受け止めがどう変化したのかあるいはしなかったのか、そのあたりに焦点を当てて自由に意見を出し合いました。学校での取組や子ども達の様子に続き、各委員がこの半年間に感じたことを出していたところ、

- ◎小さい頃から成長を見てきた地域での子どものあいさつは良い。よく知っている大人へのあいさつだから良いのかも知れないが、知らない人にはあいさつをしないという今の世の中の雰囲気も、子ども達のあいさつの仕方に影響を与えているのかもしれない。
- ◎野球部などチームスポーツをやっている子らのあいさつはとても良い。元気でとても印象がいい。
- ◎役場の職員のあいさつが、少しだけ前より良くなったと感じたことがあった。いつもではないが。
- ◎役場も自分の働く職場でも、あいさつをする職員としない職員はいつも大体同じだと思う。
- ◎あいさつは小さい頃からの親のしつけの影響が大きいと思う。今の親は厳しくしつけているのかな。
- ◎家ではあまりあいさつをしなくて心配したが、外ではちゃんとやっているようで安心した。嬉しかった。
- ◎どんな会話でも始まりは先ずあいさつからなので、役場でも会社でも、訪ねてきた人がいれば自ら進んでそれをやるだけで、がらりと対応が良くなると思うし、自分は若い職員にそうするよう言っている。

——— こんな感じでした。また、今回の協議会では、時期的に教職員人事の時期になることから、委員の方々に、「横浜町にどんな先生に来てほしいか、どんな先生を期待しているか」について印象やイメージを率直に述べていただきました。これがまた盛り上がりました。出されたことを列挙します。

「クソまじめはダメ。面白みや情熱があって苦勞を知っている先生」「あまり友達になりすぎるのはダメ。教えるべきことをちゃんと教える先生」「疲れ切った感じの先生はダメだな」「やっぱり横浜を好きになってくれる先生！」「小学校では基礎をしっかり教え、中学校では深く考えさせる授業ができる先生」「宿題・家庭学習はやっぱり大切。それをしっかりやらせる先生」「教師が本を読まないと聞くが、読書を大切にしている先生」「100点満点中最低でも50点以上の力を確実につけてくれる先生」・・・こんな感じでした。

さらに、コロナ以降、「学校と保護者・地域間のコミュニケーション、担任と保護者とのコミュニケーション不足」を感じている保護者や、逆に「必ずしもコミュニケーションを求める親ばかりじゃない」といった意見があることも出されました。・・・これらはきっと、次の協議会テーマにつながりますね。

横浜町学校運営協議会では、出された話題について、学校や職場、地域などに直接、あるいはホームページ情報として伝えていきます。今回、再び「あいさつの大切さ」が深く理解されれば、また、先生方への期待の中身を知る機会になれば、CS情報発信としては大成功です。そう信じてこの先も頑張ります！（事務局）